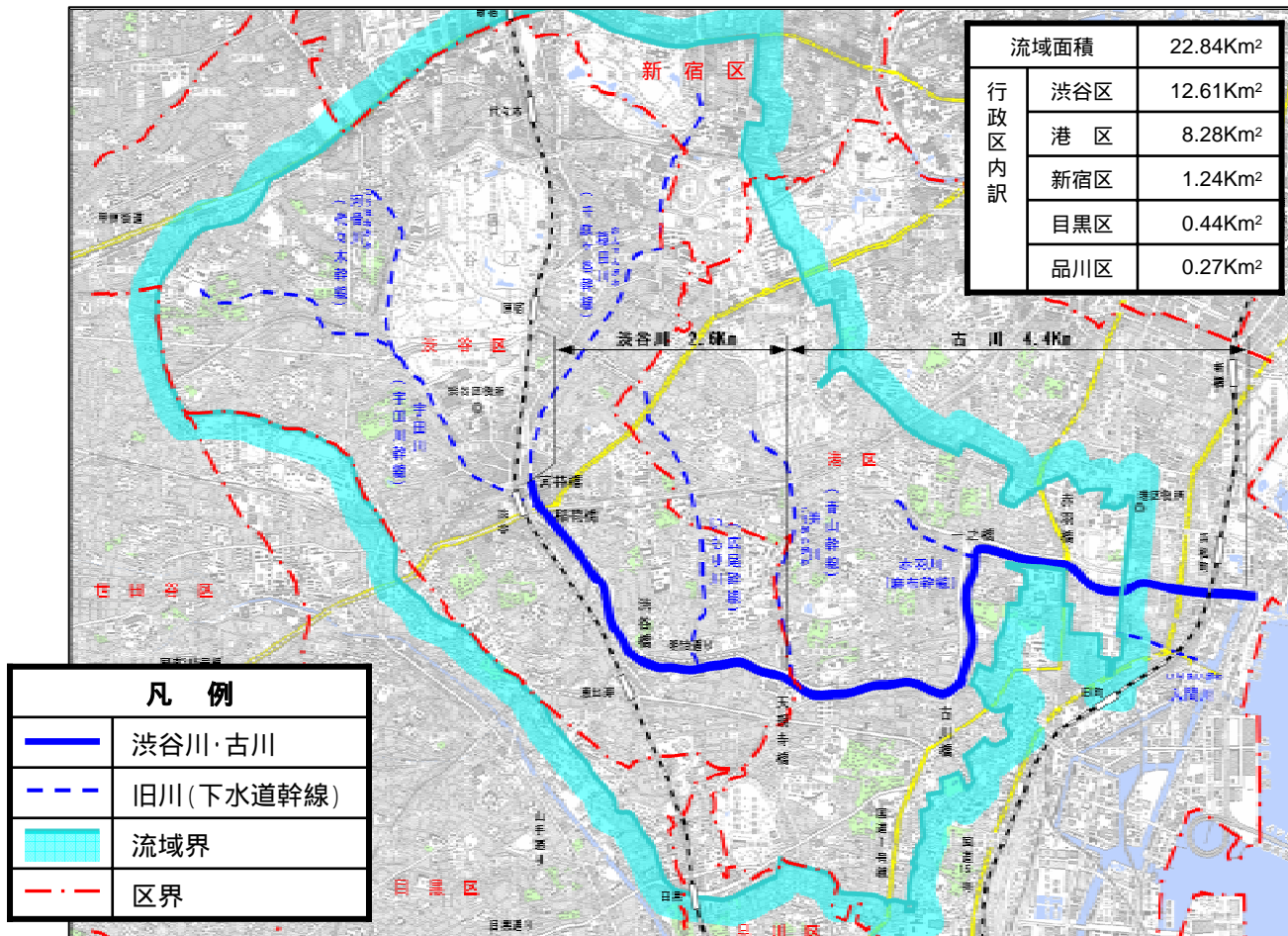


渋谷川・古川河川整備計画の概要

渋谷川・古川とは？

渋谷川・古川は、JR渋谷駅東口の宮益橋を起点に明治通り沿いに南東方向へ流下し、JR恵比寿駅付近より東流し、古川橋で北上、再度一之橋で東流し、JR浜松町駅付近の東京湾に注ぐ、流路延長7.0km、流域面積22.84km²の二級河川です。また、渋谷区内の宮益橋から天現寺橋間の2.6kmを渋谷川、港区内の天現寺橋から河口間の4.4kmを古川と呼んでいます。

なお、本川上流域や支川は、現在暗渠化されており、下水道幹線として管理されています。



渋谷川・古川の特徴

渋谷川・古川流域は、東京の都心部に位置し比較的早い時期より市街化が進展していることから、昭和初期には全ての区間で河川の整備が完了しています。

その後、昭和39年のオリンピックを迎えるにあたって、古川では首都高速道路の建設により上空が覆われ、渋谷川の上流部分の隠田川や河骨川などの支流が暗渠化され下水道幹線となりました。

現在、治水安全度の向上及び著しい護岸の老朽化対策のため、一時間当たり50ミリに対応するための護岸整備を行っています。渋谷川は、昭和61年より護岸改修を始め、平成15年にはほぼ完了しています。古川は、赤羽橋より下流の高潮区間についてほぼ完了していますが、赤羽橋より上流の中小河川区間では、首都高速の橋脚や建築物が近接していることから、ほとんど整備されていません。

本河川では、平成11年8月29日の集中豪雨により一之橋から古川橋の沿川で約16ha、600棟以上もの浸水被害が発生したことをはじめ、近年、水害が頻発しております。このような水害の解消を目指すためにも、調節池や護岸の整備が急がれます。



渋谷川新橋上流付近



古川一之橋上流付近

渋谷川・古川河川整備計画の目標

水害から都民の命と暮らしを守るとともに、都市のにぎわいと人々にうるおいやすらぎをもたらす渋谷川・古川の再生を目指します。

計画対象区間と期間

計画対象区間は、JR渋谷駅前の宮益橋を起点とし、海岸通り浜崎橋付近の河口部を終点とする東京都管理区間で、河川の整備から維持管理に関することが含まれます。

計画期間については、20～30年間を目標としていますが、川をとりまく状況の変化や社会状況の変化に応じて見直しを行います。

河川の整備

< 渋谷川・古川の整備概要図 >



地下調節池のイメージ



護岸整備のイメージ

治水・・・洪水による水害の防止又は軽減

地下調節池や護岸の整備により、1時間あたり50ミリ規模の降雨により発生する洪水に対して安全であることを目指します。

高潮に対しては、昭和34年の伊勢湾台風と同規模の台風により発生する高潮（A.P.+4.6m）に対して安全であることを目指します。

環境・・・河川環境の保全、創出、再生

拠点整備を進めるなど、うるおいやすらぎのある水辺を創出に努め、親しみを持てる身近な川を目指します。



拠点整備のイメージ(渋谷川、恵比寿東公園)



拠点整備の実施例(古川、港区立新広尾公園)